

# 2022年度第3四半期 決算説明資料



2023年2月13日

株式会社三井E&Sホールディングス



## 2022年度 第3四半期 決算概要

◆ 受注高	2,140 億円	(前年同期比 ↓ )
◆ 売上高	1,732 億円	(前年同期比 ↓ )
◆ 経常利益	▲4 億円	(前年同期比 ↑ )

## 2022年度 見通し

◆ 受注高	2,700 億円	(2Q発表見通し比 → )
◆ 売上高	2,400 億円	(2Q発表見通し比 → )
◆ 経常利益	30 億円	(2Q発表見通し比 ↑ )

## トピック

- ◆ 環境規制と船用ディーゼル機関

(単位：億円)

	21年度 3Q	22年度 3Q	増減
受注高	4,329	2,140	▲2,189
売上高	5,085	1,732	▲3,353
営業利益	▲94	▲25	+69
(営業利益率)	(▲1.9%)	(▲1.5%)	-
経常利益	▲86	▲4	+82
(経常利益率)	(▲1.7%)	(▲0.3%)	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲19	22	+41

&lt;期中平均為替レート&gt;

USD	112.18円	138.28円
-----	---------	---------

# 2022年度 第3四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	21年度 3Q	22年度 3Q	増減	21年度 3Q	22年度 3Q	増減
船舶 (*1)	128	84	▲43	241	66	▲175
海洋開発 (*2)	2,707	—	▲2,707	3,233	—	▲3,233
機械	1,105	1,619	+515	1,076	1,207	+131
エンジニアリング	15	19	+4	69	67	▲3
その他	374	417	+43	466	393	▲74
合計	4,329	2,140	▲2,189	5,085	1,732	▲3,353
除く 海洋開発	1,622	2,140	+518	1,852	1,732	▲120

(\*1) 三井E&S造船は22年度3Qから連結除外

(\*2) モデックは21年度4Qから連結除外

# 2022年度 第3四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	21年度 3Q	22年度 3Q	増減	21年度 3Q	22年度 3Q	増減
船舶 (*1)	▲2	1	+3	6	2	▲4
海洋開発 (*2)	▲81	—	+81	▲50	8	+58
機械	36	28	▲8	38	27	▲12
エンジニアリング	▲54	▲50	+4	▲59	▲23	+35
その他	7	▲4	▲11	▲22	▲17	+4
合計	▲94	▲25	+69	▲86	▲4	+82
除く 海洋開発	▲13	▲25	▲12			

(\*1) 三井E&S造船は22年度3Qから連結除外

(\*2) モデックは21年度4Qから連結除外

(単位：億円)

	前回見通し (2022/11/10)	今回見通し (2023/2/13)	増減
受注高	2,700	2,700	－
売上高	2,400	2,400	－
営業利益	▲30	10	+40
経常利益	10	30	+20
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	40	+20
フリーCF	▲210	▲210	－
有利子負債	1,500	1,500	－

※ 前提為替レート US\$ = 130円 (前回見通し145円)

※ US\$ 1円の円高が営業利益に与える影響 ⇒ 約2億円の改善

# 2022年度 セグメント別 業績通期見通し

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	前回見通し (2022/11/10)	今回見通し (2023/2/13)	増減	前回見通し (2022/11/10)	今回見通し (2023/2/13)	増減
船舶 (*)	80	80	—	70	70	—
機械	2,000	2,000	—	1,700	1,700	—
エンジニアリング	20	20	—	100	100	—
その他	600	600	—	530	530	—
合計	2,700	2,700	—	2,400	2,400	—

※ 前回発表から変更はございません

(\*) 三井E&S造船の連結除外に伴い、第2四半期迄の実績を丸めて表示

# 2022年度 セグメント別 業績通期見通し

(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	前回見通し (2022/11/10)	今回見通し (2023/2/13)	増減	前回見通し (2022/11/10)	今回見通し (2023/2/13)	増減
船舶 (*)	0	0	-	0	0	-
海洋開発	-	-	-	10	20	+10
機械	80	80	-	80	80	-
エンジニアリング	▲110	▲70	+40	▲60	▲50	+10
その他	0	0	-	▲20	▲20	-
合計	▲30	10	+40	10	30	+20

(\*) 三井E&S造船の連結除外に伴い、第2四半期迄の実績を丸めて表示

## 船用ディーゼル機関に対する温室効果ガス規制の影響

国際海事機関（IMO）において2050年までに温室効果ガス排出量を2008年比で50%以上削減し、今世紀中なるべく早期の排出ゼロという目標を設定

	CO2排出規制	2022年	2023年												
1	EEDI (Energy Efficiency Design Index) 新造船を対象としたエネルギー効率設計指標	フェーズ3 15-50%削減 船種やサイズによって削減率が異なる													
2	EEXI (Energy Efficiency Existing Ship Index) 就航船を対象とした燃費性能指標		適用開始 2023年1月1日以降最初の年次、中間、更新検査までに規制適合が必要												
3	CII (Carbon Intensity Indicator) 就航船を対象とした燃費実績の格付け制度で段階的に削減率が厳しくなる		適用開始 年間排出量実績により船種毎に5段階の格付												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>2019</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>2026</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削減率</td> <td>基準</td> <td>5%</td> <td>7%</td> <td>9%</td> <td>11%</td> </tr> </tbody> </table>	年	2019	2023	2024	2025	2026	削減率	基準	5%	7%	9%	11%		
年	2019	2023	2024	2025	2026										
削減率	基準	5%	7%	9%	11%										

## 温室効果ガス規制に対する船用ディーゼル機関の改善手法

$$\text{EEDI/EEXI} : \text{主機排出分} = \text{機関出力} \times \text{燃料消費率} \times \text{CO2換算係数}$$

機関出力	燃料消費率	CO2換算係数
デレレーティング：定格出力を減速運転に適した値に変更		二元燃料機関の選定
EPL：主機関に出力制限をかける改造 ※EEXIのみに寄与	EcoEGR：少量のEGRを行い、NOx削減と燃費改善を同時に実現する方法	—
—	THS2：過給機から回収したエネルギーを排気弁開閉等の油圧動力として供給する事により燃費を改善するシステム	—

EPL：Engine Power Limitation(機関出力制限), EGR：Exhaust Gas Recirculation(排気再循環),  
THS：Turbo Hydraulic System(油圧式廃熱回収システム)

船用燃料の需要予測	LNG → メタノール → アンモニアの順で増加して行く見込み
二元燃料機関の製造台数見込み	2022年度：2台、2023年度：約10台、2024年度：約20台

### 船用推進システム事業の売上高：

2025年度売上高目標2,800億円（2023中期経営計画）の約5割を占めるまでに成長

# 参考) 2022年度 第3四半期 連結損益計算書の概要

(単位：億円)

科目	21年度3Q	22年度3Q	増減	
<b>売上高</b>	<b>5,085</b>	<b>1,732</b>	<b>▲3,353</b>	主にモデックの連結除外による影響により減少
<b>売上総利益</b>	<b>217</b>	<b>185</b>	<b>▲32</b>	
販売費及び一般管理費	311	210	▲101	
<b>営業損失 (▲)</b>	<b>▲94</b>	<b>▲25</b>	<b>+69</b>	主にモデックの連結除外の影響による増加
営業外収益	77	75	▲2	
営業外費用	70	54	▲15	
<b>経常損失 (▲)</b>	<b>▲86</b>	<b>▲4</b>	<b>+82</b>	
特別利益	112	48	▲65	
特別損失	24	14	▲9	
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>3</b>	<b>29</b>	<b>+27</b>	
法人税等合計	53	8	▲45	
非支配株主に帰属する 四半期純損失 (▲)	▲31	▲1	+30	
<b>親会社株主に帰属する四半期純 利益又は四半期純損失 (▲)</b>	<b>▲19</b>	<b>22</b>	<b>+41</b>	

# 参考) 2022年度 第3四半期 連結貸借対照表の概要

(単位：億円)

科目	21年度 4Q	22年度 3Q	増減	
<b>資産合計</b>	<b>4,092</b>	<b>4,265</b>	<b>+174</b>	
(現金及び預金)	518	401	▲116	
(受取手形、売掛金及び 契約資産)	786	718	▲68	
(有形・無形固定資産)	1,344	1,307	▲37	
(投資有価証券)	433	695	+262	モテックに対する為替換算調整勘定の変動などによる増加
<b>負債合計</b>	<b>3,462</b>	<b>3,269</b>	<b>▲194</b>	
(支払手形及び買掛金)	487	525	+38	
(契約負債)	309	367	+58	
(受注工事損失引当金)	596	483	▲113	
(有利子負債)	1,424	1,349	▲74	
<b>純資産合計</b>	<b>629</b>	<b>997</b>	<b>+367</b>	
(自己資本)	571	955	+384	主に優先株式の発行・為替換算調整勘定の増加
自己資本比率	14%	22%		
ネットD/Eレシオ	1.6倍	1.0倍		

## 船用ディーゼル機関 (三井E&Sマシナリー)

	21年度 3Q累計		22年度 3Q累計		22年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	62	178	123	269	—	—
売上高	92	208	98	204	—	—
受注残高	38	91	46	108	—	—
生産実績	87	193	100	211	135	300



# MITSUMI E&S

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性があります。